

「今、私にできること」

山形県 山形大学附属小学校 6年 佐藤 綾芽

「3月11日が県民防災デーになったんだって。」ニュースを見て、母が言いました。

防災週間や防災の日など、以前からあるように思った私は、県民防災デーについて、山形県のホームページで調べてみました。「県民一人ひとりが、いざという時のために、防災点検をする日だって。」と、私が言うと、「じゃあ、うちでも何か、防災に関することをしないとね。」と、母が言いました。「いえーい。じゃあ、非常食が食べたい！」隣で話を聞いていた妹が提案しました。

そこで、非常食として保管している、賞味期限が近付いたアルファ化米から、それぞれ好きな味を選び、皆で食べてみることにしました。父は菜飯、母と妹は五目ご飯、私はわかめご飯です。その商品は、袋が自立し、お皿の代わりになります。スプーンも付いているので、食器がなくても大丈夫です。作り方は、袋に水を入れて、60分待つだけ。時間はかかるけれど、電気やガスなしでご飯ができるのです。非常時のために色々工夫されていることを知って、私はびっくりしました。食べてみると、美味しい割に箸は進みません。「口飽きして食べきれない。」と私が言うと、「ご飯だけで食べられようと思って味付きにしたのだけれど。」と、母が言いました。「味付きより、白米にカレーをかけた方が食べやすそうだね。」「パンの非常食とかは、ないのかなあ。」

家族で相談して、白米、カレー、おでん缶、パンの非常食を追加購入することにしました。

今回、実際に非常食を食べてみて、作り方や味を確認することは、予想外に大事だと思いました。事前に食べてみることで、非常時の問題やストレスが減らせると感じました。

ところで、今年の7月25日に、私たちが住む山形県の庄内、最上地方が、これまで経験したことのない大雨に見舞われました。県内では過去最大級の被害だと父が深刻な顔をしています。私は、被害の大きさをあまり知らなかったので、インターネットで改めて調べてみました。

1か月経った今、人的被害は、死者3名、軽傷4名。建物被害は、全半壊に加え、床上床下浸水など、1700棟を超えています。さらに、約50か所で土砂災害が発生し、道路、河川、農地などにも大きな被害が及び、被害額は、なんと900億円を超えたそうです。

山形県は、比較的災害が少ない地域だと思っていましたが、今回、県内でこれほどの災害が起き、私は「災害はいつどこで起こるか分からない」と改めておそろしく思いました。

今回の災害を受けて、災害時に避難所となる小学校まで、家族で歩いてみました。ブロック塀は倒れやすいので、大きな地震の時は巻き込まれるおそれがあること。用水路は、大雨の時には増水するので、絶対に近付かないこと。斜面に立っている木も倒れるおそれがあることなど、皆で改めて確認しながら歩きました。

私は、3年前に参加した親子砂防教室がきっかけで、防災に興味を持つようになりました。以来、夏休みには毎年、家族で防災について話し合い、土砂災害防止に関する、このコンクールに取り組み、ポスターや作文を書いています。車で出掛ける時には、法粋工に自然と目が行き、がけ崩れを防いでくれていることに感謝します。土石流を食い止める砂防堰堤も実際に見に行きました。以前は、災害が自分に関係のないことのように考えていたけれど、今では、家族で防災の話をするのは当たり前になり、非常食や携帯トイレなどの物品も、家に大分揃ってきました。

災害は、いつ起こるか分かりません。自分や家族の命を守るために、今後も家族でしっかりと考え、取り組んでいきたいです。また、災害で被害に合う人が少しでも減るよう、周囲にも発信していきたいと思います。